

福岡県嘉麻市におけるMIMの取組

I 嘉麻市の教育環境・状況

1 嘉麻市の基礎情報（平成26年5月1日現在、人口を除く）

- (1) 人口 41,447名
- (2) 学校数 市立小学校8校, 市立中学校5校
- (3) 児童・生徒数 小学校 1,915名, 中学校 1,073名
- (4) 通級指導教室および特別支援学級の設置状況

① 小学校

通級指導教室

言語障害 1校, 1教室, 11名

特別支援学級

知的障害 6校, 7学級, 5名

肢体不自由 2校, 2学級, 2名

情緒障害 4校, 5学級, 20名

② 中学校

特別支援学級

知的障害 5校, 6学級, 20名

肢体不自由 1校, 1学級, 2名

情緒障害 4校, 4学級, 9名

(5) 特別支援学校の設置状況

嘉麻市内における福岡県立の特別支援学校 1校

・福岡県立嘉徳特別支援学校（知的障害の小・中学部）

2 嘉麻市における発達障害関連の施策

- (1) 文部科学省の委託事業：なし
- (2) 県の委託事業：なし
- (3) 市独自の事業

「嘉麻市特別支援教育総合推進事業」

実施期間：平成24年度から実施

※平成21～23年度は、発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業

※平成24年度からは特別支援教育総合推進事業

※平成24・25年度は、文部科学省からの委託事業「早期からの教育相談・支援体制構築事業」を受託

概要：

- ア 早期による〔保育所（園）、幼稚園、小学校低学年〕巡回相談および教育相談の実施
- イ 三課（学校教育課、健康課、こども育成課）連携協議会の開催
- ウ 嘉麻市小学校特別支援教育コーディネーター協議会の開催

3 嘉麻市における学力向上関連の施策

(1) 文部科学省の委託事業：なし

(2) 県の委託事業

「ふくおか学力アップ推進事業」

実施期間：平成26年度～28年度

概要：

ア 学力向上推進強化市町村の指定

イ 学力向上支援チームの派遣

ウ 非常勤講師の派遣 等

(3) 市独自の主な事業

実施期間：平成26年度

① 30人以下学級の全学年措置

概要：少人数指導を実施し、児童生徒の学力の向上、生徒指導の充実に努める。

② 学校提案型学力向上事業

概要：学校提案による学校外補習学習事業等を実施することにより、児童生徒の学力の向上に努める。

③ 嘉麻市教育センター研修推進事業

概要：嘉麻市教育センター主管の研修会（平成26年度は、計35回）を実施することにより、若年教員の指導技術の向上、教職員の資質向上に努める。

4 発達障害のある子ども等への支援リソース

(1) 支援員や巡回相談等の人的支援

実施期間：平成26年度配置：児童生徒一人一人のニーズに応じた特別支援教育を行うため人的支援を行う

① 特別支援教育補助教員

概要：通常の学級に在籍している児童生徒の中で特別に支援が必要な児童生徒の学習指導を行う。要件は、赴任する学校の教員免除を保有する者。

【小学校】8校…11名雇用，【中学校】5校…6名雇用

② 特別支援学級介助員

概要：特別支援学級に在籍する肢体不自由のある児童生徒の移動や食事、排泄等の介助を行う。要件等は特になし。

【小学校】2校…2名雇用，【中学校】1校…1名雇用

③ 特別支援学級支援員

概要：特別支援学級に在籍する児童生徒の学校生活上の介助や学習活動上の支援を行う。要件等は特になし。

【小学校】6校…10名雇用，【中学校】3校…3名雇用

④ スクールカウンセラーの雇用（2名）

⑤ スクールソーシャルワーカーの雇用（1名）

⑥ 学校支援相談員の雇用（3名）

要件：ア スクールカウンセラーの任用資格等を有する者

- イ 大学を卒業した者で心理臨床業務について1年以上の経験を有する者
 - ウ 教員免許を保有し、児童・生徒を対象とした相談援助業務について2年以上の経験を有する者
 - エ 大学又は短期大学を卒業した者で、児童・生徒を対象とした相談援助業務について3年以上の経験を有する者
 - オ 教員として3年以上の経験を有する者
- (2) 教材等の提供といった物的支援
新年度予算編成時に学校と協議の上、予算化する。また、緊急においても学校と協議の上、対応する。
- (3) 公的な相談・指導機関の名称と支援・対応内容
嘉麻市教育センター教育相談室（適応指導教室「れすとぴあ」）
概要：心理的または情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰を支援するとともに、教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行う。

II 嘉麻市の MIM の取組

1 MIM に取り組むことになった経緯

- (1) 本市は、小中学校ともに学力面で課題を抱えている。また、学級の中でも学力の差が大きい。そこで小学校1学年から読みの力をしっかり育てること、学び方や学力差に応じた指導の工夫が必要であると考えた。
- (2) 具体的な導入の経緯については、以下のとおりである。
昨年度、嘉麻市の小学校の1年生で実践し、特殊音節を含む「読む力」において成果があったこと。また、近隣の自治体（福岡県飯塚市）の全ての小学校で実践され、同様の成果が見られていたことから、市費で MIM の教材を購入し、各小学校に配布し、取組を開始した。

2 MIM に関する実施計画

- (1) 平成 26 年度 全ての小学校で MIM を導入した。
- (2) 今後の3年間で、MIM の定着（教職員への普及・啓発、校内指導体制の整備、推進リーダーの育成等）を図る。

3 MIM に関する事業における行政（教育委員会、教育センター）の具体的役割

- (1) MIM に関する教材費等の予算措置を行い、各学校が実践できる体制を整える。
- (2) MIM の具体的な指導法を学ぶため、市内教員（管理職を含む）を対象とした研修会を実施する。
- (3) 毎月実施する MIM-PM のデータを国立特別支援教育総合研究所（主任研究員 海津亜希子先生）へ送り、分析を行ってもらっている（各学校、各クラスの MIM-PM の各得点の平均点が、1st ステージ、2nd ステージ、3rd ステージのどの段階に

相当するか。また、各クラスにおける 1st ステージ、2nd ステージ、3rd ステージの子どもの割合の算出)。その結果を学校に返却し、指導に反映する。

4 MIM に関する研修

(1) 平成 26 年度に実施した研修会 (3 回)

① 嘉麻市小学校 MIM 研修会①

日時：平成 26 年 5 月 28 日 (水) 15:30~17:00

会場：嘉麻市教育センター

対象：校長及び小学校 1 年生担任、本研修会への参加を希望する者 (22 名)

内容：講話・演習「通常の学級における多層指導モデル MIM の指導」

講師：福岡県飯塚市立飯塚小学校 教諭 杉本 陽子 先生

② 嘉麻市小学校 MIM 研修会②

日時：平成 26 年 7 月 24 日 (木) 13:00~16:00

会場：嘉麻市教育センター

対象：小学校 1 年生担任、指導方法工夫改善教員 (低学年担当)、本研修会への参加を希望する者 (25 名)

内容：講話・演習「2nd ステージの指導」

講師：福岡県飯塚市立飯塚小学校 教諭 杉本 陽子 先生

③ 嘉麻市小学校 MIM 研修会③

日時：平成 27 年 1 月 6 日 (火) 15:30~17:00

会場：嘉麻市教育センター

対象：小学校 1 年生担任、指導方法工夫改善教員 (低学年担当) 本研修会への参加を希望する者 (23 名)

内容：講話・演習「3rd ステージの指導」

講師：福岡県飯塚市立飯塚小学校 教諭 杉本 陽子 先生

(2) 参加者の反応

① アンケート結果から

研修会後のアンケートにおいて、研修内容が「大変よかった」「よかった」と回答した参加者の割合は、全ての研修会で 100%だった。

② 参加者の声

[MIM 研修会①]

- ・「わからないことを自分で解決する力」をつけるという言葉が一番心に残った。
- ・「読みは全ての学力の基本」「視覚化と動作化」というキーワードが心に残った。
- ・「学習につまずく前に」「つまずきが深刻化する前に」という MIM の目的に大変興味を持った。

[MIM研修会②]

- ・今回、たくさんのゲームを教えていただき、このように楽しく言葉を学習できれば、自分の学級の言葉が入りにくい子どもも意欲を高められるなど感じた。
- ・どの指導においても、子どもを大切にされる気持ちやどの子にもやる気をもたせるゲームのルールづくりなどとても素晴らしいなど感じた。

[MIM研修会③]

- ・「昨日の自分より伸びた」と効果をその子が実感できるような個別の指導を行うこと。そのためには、その子のつまづきをしっかり把握することから担任の先生と始めたい。
- ・「一人一人の課題をきちんとつかむこと」「チームを作って取り組むこと」が大切だと実感した。

(3) 成果と課題

- ・講師の杉本先生から、毎回具体的な指導のアイデアを紹介していただいたので、各学校ですぐに実践に生かすことができた。
- ・年間3回の研修会で、「1stステージの指導のあり方」「2ndステージの指導のあり方」「3rdステージの指導のあり方」と順番に取り上げてもらったので、参加者のニーズに合致していた。
- ・各学校の校長に研修会に参加してもらったことにより、MIMが学校に位置付きやすくなった。
- ・来年度は、開発者である海津先生を講師として招いての研修会を実現させたい。

5 MIMに関する事業についての現時点での成果

- ・MIM-PMを実施することにより、子どもたちの客観的なデータが得られ、どの子どもにも、どんな個別指導が必要なかが明らかになった。
- ・クラスレポート（学級全員の子どもの得点傾向がわかる資料）の月別の結果を分析すると、1stステージ（一斉指導により効果が見られる）の学級が増え、2ndステージ（通常の学級内での補足的な指導と配慮が必要）および3rdステージ（より特化した個別指導が必要）の学級が減少している。
- ・MIMの取組を1年生担任だけに任せるのではなく、指導方法工夫改善教員や専科教員なども加わって組織的に指導する体制づくりが進んできた学校も散見される。

6 MIMに関する事業についての現時点での課題

- ・MIMを組織的に指導する校内の体制づくりを進める必要がある。
- ・MIMの推進リーダーの育成が必要である。
- ・MIMに関する教材費等の予算措置をさらに進める必要がある。

7 MIMの事業を進めるにあたって期待すること

- ・MIMの指導を継続的に進めることにより、一人一人の子どもの実態に応じた指導がさらに充実していくことが期待される。
- ・子どもの「読む力」の向上が、全体的な学力の向上につながることを期待される。

8 MIM への要望

MIM の実践に関する情報提供の機会を増やして欲しい。

9 今後 MIM に関する事業を進めようとしている自治体へのアドバイス・メッセージ

- ・前にも述べたが、MIM 研修会に管理職等に参加してもらうことは、MIM を校内に位置付ける上で有効である。

(嘉麻市の予定 1年次：校長参加 2年次：教頭参加 3年次：教務担当参加)

- ・市内の全ての小学校に MIM 指導を定着させるためには、「MIM の教育課程への位置付け (国語の教科書の活用, 個別指導の時間確保等)」「MIM の組織的な指導体制の構築 (複数の教師による指導, 教材の整備・保管等)」「MIM の推進リーダーの育成」が必要である。

(文責：嘉麻市教育センター・指導主事 芳野 浩司)